

交付運用報告書

受益者の皆さまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

当ファンドは世界の転換社債等（転換社債の他、交換可能証券、ワラント付債券、転換権付債券証券を含みます。）を実質的な主要投資対象とし、投資信託財産の中期的な成長を目指して運用を行います。なお、実質組入外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行います。当期におきましても、当該運用方針に沿った運用を行いました。ここに、その運用状況をご報告申し上げます。

引き続き、一層のご愛顧を賜りますよう、お願い申し上げます。

UBS世界CBファンド
米ドルヘッジコース

追加型投信／内外／その他資産（転換社債）

第11期（決算日2022年8月5日）
作成対象期間（2021年8月6日～2022年8月5日）

第11期末（2022年8月5日）	
基準価額	34,337円
純資産総額	4,887百万円
騰落率*	0.1%
分配金合計	0円

※騰落率は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算しています。

UBSアセット・マネジメント株式会社

東京都千代田区大手町一丁目2番1号 Otemachi Oneタワー

<お問い合わせ先> 投信営業部 03-5293-3700

（受付時間：営業日の午前9時～午後5時、土、日、祝日除く）

<http://www.ubs.com/japanfunds>

当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を電磁的方法により提供することが定められております。運用報告書（全体版）は以下の方法でご覧いただけます。

<閲覧方法>

上記の委託会社のホームページアドレス⇒「ファンド検索」にファンド名（日経新聞掲載名でも可）を入力⇒表示されたリストの「ファンド名」欄にある当該ファンドの名称をクリック⇒「運用報告書（全体版）」のタブをクリック

なお、運用報告書（全体版）は受益者のご請求により交付されます。書面をご希望される場合には、販売会社までお問い合わせください。

©UBS2022。キーンシボル及びUBSの各標章は、UBSの登録又は未登録商標です。UBSは全ての権利を留保します。

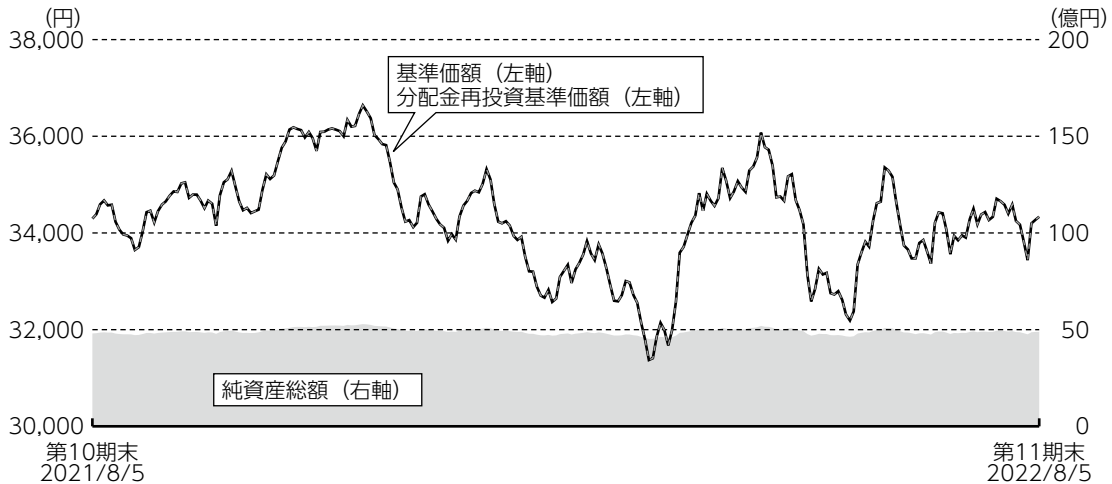
UD FONT

見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

運用経過

基準価額等の推移について

(2021年8月5日～2022年8月5日)



第11期首：34,295円

第11期末：34,337円 (既払分配金 0円)

騰落率： 0.1% (分配金再投資ベース)

- (注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 分配金再投資基準価額は、期首の値を基準価額と同一となるように指数化しています。

基準価額は期首比で42円値上がりしました。なお、基準価額の騰落率は+0.1%となりました。

基準価額の主な変動要因

当期、マザーファンドの基準価額は、CB市場の大幅下落によるマイナス（下落）要因を、為替変動（米ドル高／円安）によるプラス（上昇）要因が上回り、値上がりしました。一方、当ファンドの基準価額は、マザーファンドのプラス分を、信託報酬の費用負担などのマイナス分が相殺した結果、ほぼ横ばいとなりました。

1万口当たりの費用明細

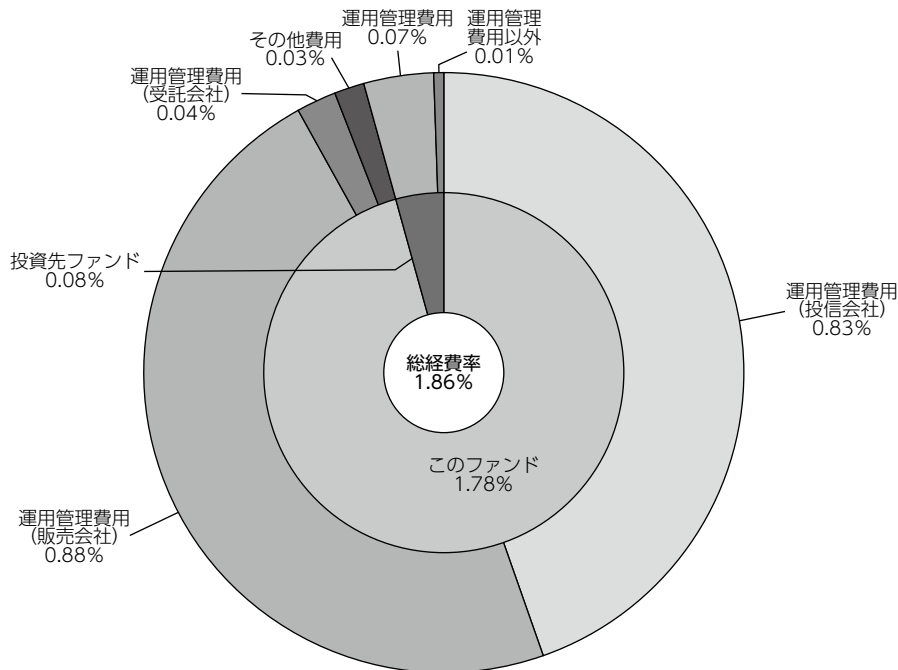
項 目	当期 2021/8/6~2022/8/5		項目の概要
	金額	比率	
信託報酬	600円	1.749%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 ※期中の平均基準価額（月末値の平均）は34,307円です。
（投信会社）	(283)	(0.825)	委託した資金の運用の対価
（販売会社）	(302)	(0.880)	運用報告書等各種書類の交付、口座内でのファンドに係る管理、購入後の情報提供等の対価
（受託会社）	(15)	(0.044)	運用財産の管理、運用指図実行等の対価
その他費用	11	0.033	その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（保管費用）	(0)	(0.001)	海外保管銀行等に支払う海外資産等の保管・送金・受渡等に係る費用
（監査費用）	(7)	(0.022)	監査法人等に支払うファンド監査に係る費用
（印刷費用等）	(4)	(0.010)	法定開示書類作成の際に業者に支払う作成・印刷・交付等に係る費用（EDINET含む）等
（その他）	(0)	(0.001)	受益権の管理事務に関連する費用等
合計	611	1.782	

(注1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は、追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。なお、その他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報) 総経費率



総経費率 (①+②+③)	1.86%
①このファンドの費用の比率	1.78%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.07%
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.01%

(注1) ①の費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) ②・③の費用は、当該投資先ファンドの期中の平均純資産総額で除して算出した概算値です。

(注3) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注4) 各比率は、年率換算した値です。

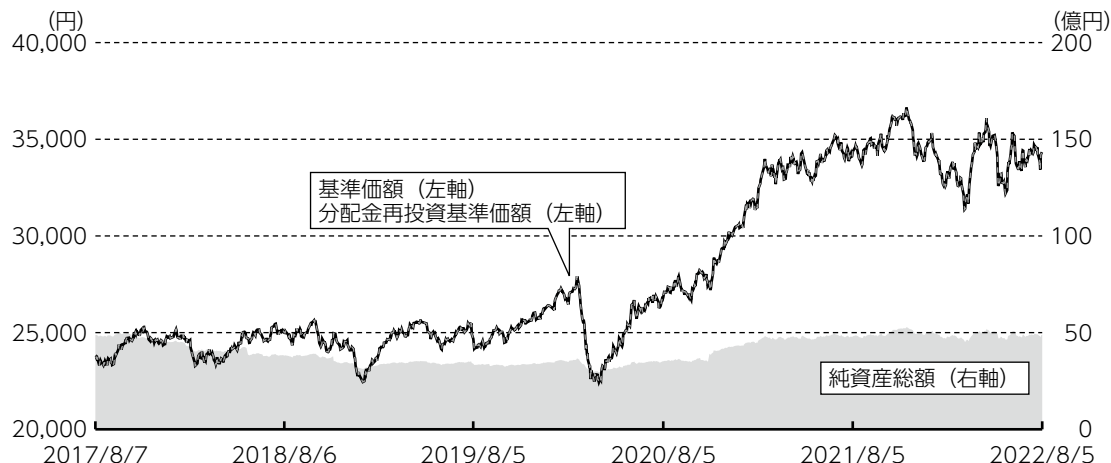
(注5) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注6) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.86%です。

最近5年間の基準価額等の推移について

(2017年8月7日～2022年8月5日)



(注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。

(注3) 分配金再投資基準価額は、2017年8月7日の値を基準価額と同一となるように指数化しています。

	2017年8月7日 期初	2018年8月6日 決算日	2019年8月5日 決算日	2020年8月5日 決算日	2021年8月5日 決算日	2022年8月5日 決算日
基準価額 (円)	23,717	24,990	24,674	26,825	34,295	34,337
期間分配金合計（税込み） (円)	—	0	0	0	0	0
分配金再投資基準価額騰落率（%）	—	5.4	△ 1.3	8.7	27.8	0.1
純資産総額 (百万円)	4,877	3,815	3,396	3,524	4,805	4,887

(注) 「分配金再投資基準価額騰落率」および「期間分配金合計（税込み）」は、表中の直前の決算日または期初からの騰落率および分配金合計（税込み）です。

※当ファンドはファンド・オブ・ファンズであり、運用の目標となるベンチマークや投資対象資産の市場動向を説明する代表的な指数（参考指数）はありません。

投資環境について

CB（転換社債）市場

当期のCB市場は大きく下落しました。

2021年の後半、世界的なインフレ圧力の高まりなどの懸念材料が見られた一方で、新型コロナウイルスワクチン接種の普及による経済活動の正常化期待などに下支えされて、CB市場は概ねレンジ内で推移しました。しかし2022年に入ると、米連邦準備制度理事会（FRB）のタカ派姿勢を警戒した米国長期金利の急上昇を嫌気してCB市場は下落に転じました。さらに2月終盤には、ロシアのウクライナ侵攻に伴う投資家心理の悪化と資源価格の高騰などを背景にCB市場は一段と下落しました。期末にかけて、FRBの先行きの利上げ幅縮小観測や、大手ハイテク企業の好決算発表などを材料にCB市場は幾分反発しましたが、結局、前期末比で大幅に下落して期を終えました。

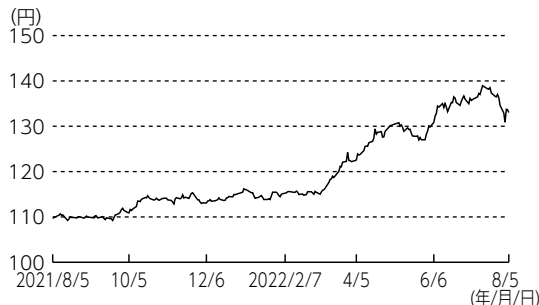
米ドル／円レートの推移

当期の米ドルは円に対して大きく上昇しました。

期の序盤は、概ねレンジ内で推移しましたが、9月に入りFRBによる早期テーパリング（量的緩和の段階的な縮小）開始観測の広がりなどを背景に、米ドルは上昇に転じ、その後も緩やかな上昇基調で推移しました。3月、FRBが利上げに舵を切り、その後も金融政策の正常化を進めたのに対し、日銀は金融緩和政策を維持したことなどから、日米の金利差拡大が意識され、急速に円安が進行しました。

期末にかけて、米国の景気後退懸念の広がりや、FRBの利上げペース鈍化観測を背景に円高が進行する局面もあったものの、結局、前期末に対して米ドル高・円安の水準で期を終えました。

米ドル／円レートの推移



ポートフォリオについて

当ファンドのポートフォリオについて

UBS世界CB（米ドルヘッジ）マザーファンドを通じて、主として、世界の転換社債等を主要投資対象とする投資信託証券に投資を行いました。なお、実質外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行っておりません。また、期中、マザーファンドの組入れは高位を維持しました。

マザーファンドのポートフォリオについて

UBS（Lux）ボンド・シキャブーコンバート・グローバル（EUR）（米ドルヘッジ）およびUBS短期円金利プラス・ファンド（適格機関投資家向け）を主要投資対象とし、UBS（Lux）ボンド・シキャブーコンバート・グローバル（EUR）（米ドルヘッジ）を高位に組入れました。

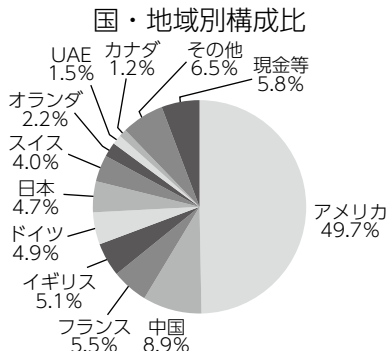
UBS（Lux）ボンド・シキャブーコンバート・グローバル（EUR）（米ドルヘッジ）のポートフォリオについて

主として世界の転換社債等を投資対象とし、元本の確保および資産の流動性に適切に配慮しつつ、収益の獲得を目指した運用を行いました。なお、米ドル建て以外の組入資産については、組入資産が実質的に米ドル建てとなるよう為替取引を行いました。

UBS（Lux）ボンド・シキャブーコンバート・グローバル（EUR）（米ドルヘッジ）の組入資産の内容

（2022年8月5日現在）

※「UBS（Lux）ボンド・シキャブーコンバート・グローバル（EUR）（米ドルヘッジ）」の投資運用会社から入手した情報を元に作成しております。



※構成比は、当該外国投資信託の評価額合計（キャッシュ、先物等含む）に占める割合です。なお、各比率の合計は端数処理の関係上100%とならない場合があります。

※国・地域は、CB等の転換対象とする株式の情報に基づいて分類しています。

組入上位10銘柄

銘柄名	国・地域	構成比
ADNOC	アラブ首長国連邦	1.5%
ON SEMICONDUCTOR	アメリカ	1.3%
DEXCOM	アメリカ	1.3%
BNP(DANONE)	フランス	1.3%
WOLFSPEED	アメリカ	1.2%
MERCADOLIBRE	アメリカ	1.1%
DISH NETWORK	アメリカ	1.1%
LYFT	アメリカ	1.1%
ANA HOLDINGS	日本	1.1%
DROPBOX	アメリカ	1.0%

※構成比は、当該外国投資信託の評価額合計（キャッシュ、先物等含む）に占める割合です。

※国・地域は、CB等の転換対象とする株式の情報に基づいて分類しています。

UBS短期円金利プラス・ファンド（適格機関投資家向け）のポートフォリオについて

UBS短期円金利プラス・マザーファンドへの投資を通じて、わが国のコマーシャル・ペーパーを含む短期金融商品および内外の円建ての公社債に投資を行い、利息等収入の確保を目指して運用を行いました。当期におきましては、利回りの優位性を勘案しつつ、コール・ローン等での運用を行いました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドはファンド・オブ・ファンズであり、運用の目標となるベンチマークや投資対象資産の市場動向を説明する代表的な指数（参考指数）はありません。

分配金について

当期は、市況動向等を勘案し、収益分配は行いませんでした。なお、分配にあてなかった利益につきましては、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

分配原資の内訳 (1万口当たり・税引前)

項 目	第11期
	2021年8月6日~2022年8月5日
当期分配金	－円
(対基準価額比率)	(－%)
当期の収益	－円
当期の収益以外	－円
翌期繰越分配対象額	24,337円

(注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は、「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

(注2) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注3) 「当期の収益」、「当期の収益以外」は小数点以下切捨てで算出しているため、合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。

今後の運用方針

投資環境の見通し

米国株式はもみ合う展開を予想します。企業決算はこれまでのところ事前の市場予想ほど悪い内容とはなっておらず、エネルギー価格の下落と長期金利の低下にもサポートされて、ハイテク株がけん引する形で悲観の修正が進んでいます。ただし、足元の株価回復基調が持続するには、市場の期待通りにインフレが早晩ピークアウトし、FRBが利上げペースを緩和できる環境になることが必要と見ています。

欧州株式は上値の重い展開を予想します。世界的な高インフレと金融引き締めに伴う需要減少に加えて、ロシア産天然ガスの供給を巡る不透明感も強まっており、欧州企業の業績改善見通しは一服しつつあります。ただし、景気減速感の強まりから金融引き締めのペースダウン観測がくすぶる中、足元の長期金利上昇一服やユーロ安、中国景気の底入れ期待などは、株価の下支え要因となりそうです。

グローバル金利については、景気後退リスクの高まりとインフレの上昇ペースの鈍化が予想されることから、長期債利回りは低下に向かうと考えます。景気が減速する中、各国中央銀行が金融引き締め姿勢を強めることで、イールドカーブのさらなる平坦化が予想されます。

社債市場では、ハイ・イールド社債のスプレッドは大幅に拡大し、成長見通しへの懸念を株式市場以上に織り込んでいるものの、スプレッドは2011年や2016年初めの市場急落時ほどには広がっていません。

CB市場は、とりわけ欧州やアジア地域では割安になっています。CBの起債は足元やや鈍化しているものの、全体の市場規模は過去最高水準に近い状態にあり、引き続き多くの投資機会をもたらしています。CBへの需要が引き続き市場を支えると思われます。

CBは株価下落局面で下値抵抗力を維持しつつ、株価上昇局面ではそのメリットが期待できることから、引き続き投資魅力度は高いと考えています。こうした環境下で、今後もファンドの特色に沿った運用を行ってまいります。

当ファンドの今後の運用方針

UBS世界CB（米ドルヘッジ）マザーファンドを通じて、主として、世界の転換社債等を主要投資対象とする投資信託証券に投資を行います。なお、実質外貨建資産については、原則として対円で為替ヘッジを行いません。また、マザーファンドの組入れは高位を維持する方針です。

マザーファンドの今後の運用方針

UBS (Lux) ボンド・シキャブーコンバート・グローバル (EUR) (米ドルヘッジ) およびUBS 短期円金利プラス・ファンド (適格機関投資家向け) を主要投資対象とし、UBS (Lux) ボンド・シキャブーコンバート・グローバル (EUR) (米ドルヘッジ) を高位に組入れる方針です。

UBS (Lux) ボンド・シキャブーコンバート・グローバル (EUR) (米ドルヘッジ) の今後の運用方針

上記の投資環境を踏まえ、主として世界の転換社債等を投資対象とし、元本の確保および資産の流動性に適切に配慮しつつ、収益の獲得を目指した運用を行う方針です。なお、米ドル建て以外の組入資産については、組入資産が実質的に米ドル建てとなるよう為替取引を行います。

UBS短期円金利プラス・ファンド (適格機関投資家向け) の今後の運用方針

UBS短期円金利プラス・マザーファンドへの投資を通じて、短期金融市場の状況を注視しつつ、コール・ローン等で運用する予定です。

お知らせ

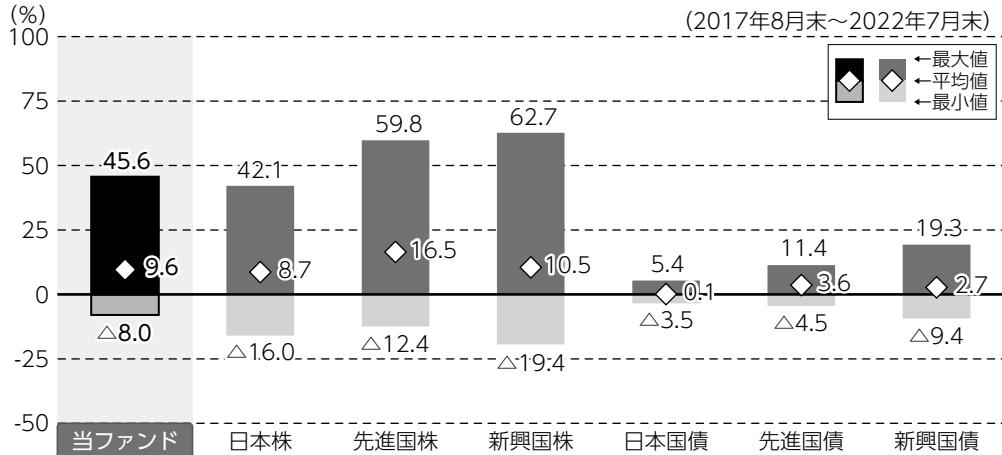
該当事項はありません。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／その他資産（転換社債）		
信託期間	無期限		
運用方針	マザーファンドを通じて世界の転換社債等（転換社債の他、交換可能証券、ワラント付債券、転換権付債務証券を含みます。）を主要投資対象とする投資信託証券に投資を行い、中期的な信託財産の成長を目指して運用を行います。実質外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行いません。		
主要投資対象	UBS世界CBファンド 米ドルヘッジコース	UBS世界CB（米ドルヘッジ）マザーファンドを主要投資対象とします。	
	UBS世界CB （米ドルヘッジ） マザーファンド	投資信託証券への投資を通じて、世界の転換社債等に投資を行います。	
		UBS（Lux）ボンド・シキャ プーコンパート・グローバル （EUR）（米ドルヘッジ）	主として世界の転換社債および、交換可能証券、ワラント付債券、転換権付債務証券を投資対象とします。
		UBS 短 期 円 金 利 プラ ス・ファンド（適格機 関投資家向け）	UBS短期円金利プラス・マザーファンド受益証券、ならびに内外の円建て公社債を主要投資対象とします。
運用方法	UBS世界CBファンド 米ドルヘッジコース	世界の転換社債等を主要投資対象とする投資信託証券に実質的に投資を行います。	
	UBS世界CB （米ドルヘッジ） マザーファンド	主として世界の転換社債等（転換社債の他、交換可能証券、ワラント付債券、転換権付債務証券を含みます。）に実質的に投資を行います。 外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行いません。	
		UBS（Lux）ボンド・シキャ プーコンパート・グローバル （EUR）（米ドルヘッジ）	主として世界の転換社債等を投資対象とし、元本の確保および資産の流動性に適切に配慮しつつ、収益の獲得を目指して運用を行います。 なお、米ドル建て以外の組入資産については、組入資産が実質的に米ドル建てとなるよう為替取引を行うことを基本とします。
		UBS 短 期 円 金 利 プラ ス・ファンド（適格機 関投資家向け）	直接投資を行う場合の公社債については、原則として、購入時においてS&P、ムーディーズ、格付投資情報センター、日本格付研究所のうち1社以上の格付機関より、Aa3/AA-以上の長期格付けが付与されたものに投資を行います。また、購入時において残存期間が2年以内の公社債とします。 UBS短期円金利プラス・マザーファンドの組入れについては、50％以上を維持することを基本とします。 ＜UBS短期円金利プラス・マザーファンド＞ 代表的銀行の3ヵ月大口預金金利を上回る信託財産の安定的な成長を目指して運用を行います。 原則として、購入時において短期格付はA-1/P-1/a-1/J-1以上、長期格付はA3/A-以上の格付けが付与されたものに投資を行い、ポートフォリオの平均デュレーションは、原則として一定の範囲内（原則として0～1.0年の範囲）で変動させます。
分配方針	毎決算時（毎年8月5日、休業日の場合には翌営業日）に、経費控除後の配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の中から、委託者が市況動向等を勘案して分配金額を決定します。ただし、委託者の判断で、分配を行わないことがあります。収益の分配にあてなかった利益については、運用の基本方針に基づいて元本部分と同一の運用を行います。		

※資金動向、信託財産の規模および市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

代表的な資産クラスとの騰落率の比較



- *全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。
- *2017年8月から2022年7月の5年間の各月末における1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。
- *騰落率は直近の月末から最大60ヵ月さかのぼった算出結果であり、当ファンドの決算日に対応したものではありません。
- *騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算しており、実際の基準価額に基づいて計算した騰落率と異なる場合があります。

各資産クラスの指数

日本株	東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)	東証株価指数 (TOPIX) に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社に帰属します。
先進国株	MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、円換算ベース)	MSCIインデックスに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。
新興国株	MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円換算ベース)	
日本国債	NOMURA-BPI国債	NOMURA-BPIに関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村證券株式会社に帰属します。
先進国債	FTSE世界国債インデックス (除く日本、円換算ベース)	FTSE世界国債インデックスに関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。
新興国債	JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイド (円換算ベース)	JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P.Morgan Securities LLCに帰属します。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

各資産クラスの騰落率について

騰落率は、データソースが提供する各指数をもとに株式会社野村総合研究所が計算しております。株式会社野村総合研究所および各指数のデータ提供者は、その内容について、信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。また、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害及び一切の問題について、何らの責任も負いません。

ファンドデータ

当ファンドの組入資産の内容

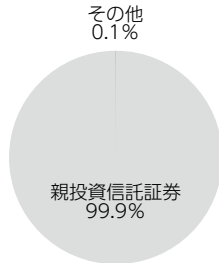
(2022年8月5日現在)

組入上位ファンド（銘柄数：1銘柄）

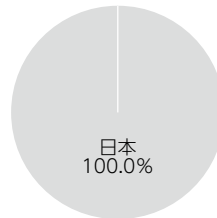
銘柄	比率（%）
UBS世界CB（米ドルヘッジ）マザーファンド	99.9

(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。

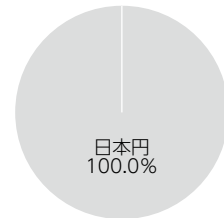
資産別配分



国・地域別配分



通貨別配分



(注1) 「資産別配分」、「通貨別配分」の比率は当ファンドの純資産総額に対する評価額の割合、「国・地域別配分」の比率は当ファンドのポートフォリオ部分に対する評価額の割合です。

(注2) 組入全銘柄に関する詳細な情報等については、「運用報告書（全体版）」をご覧ください。

純資産等

項目	第11期末 2022年8月5日
純資産総額	4,887,265,899円
受益権総口数	1,423,305,309口
1万口当たり基準価額	34,337円

(注) 当期（第11期）中における追加設定元本額は43,293,639円、同解約元本額は21,327,670円です。

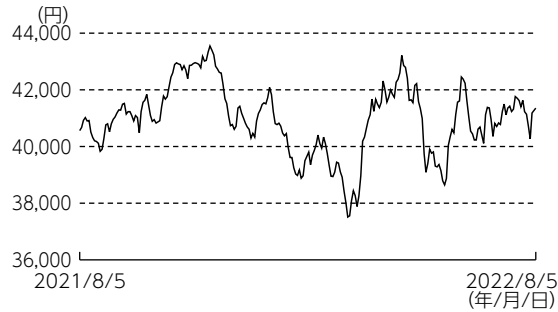
組入上位ファンドの概要

(2022年8月5日現在)

◆UBS世界CB（米ドルヘッジ）マザーファンド

基準価額の推移

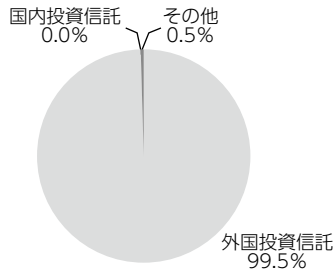
(2021年8月5日～2022年8月5日)



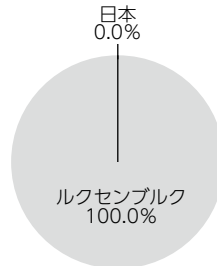
組入上位ファンド（銘柄数：2銘柄）

銘柄名	比率(%)
UBS (Lux) ボンド・シキャプーコンバート・グローバル (EUR) (米ドルヘッジ)	99.5
UBS短期円金利プラス・ファンド (適格機関投資家向け)	0.0

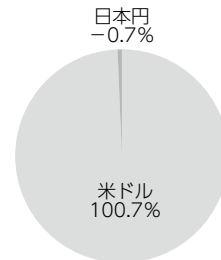
資産別配分



国・地域別配分



通貨別配分



(注1) 「基準価額の推移」はマザーファンドの直近の計算期間、「組入上位ファンド」、「資産別配分」、「国・地域別配分」、「通貨別配分」はマザーファンドの直近の決算日現在のものです。

(注2) 「組入上位ファンド」、「資産別配分」、「通貨別配分」の比率はマザーファンドの純資産総額に対する評価額の割合、「国・地域別配分」の比率はマザーファンドのポートフォリオ部分に対する評価額の割合です。

(注3) 「国・地域別配分」は、発行国・地域または投資国・地域を表示しております。

(注4) 組入全銘柄に関する詳細な情報等については、「運用報告書（全体版）」でご覧いただけます。

1万口当たりの費用明細

項 目	当期 2021/8/6～2022/8/5	
	金額	比率
その他費用 (保管費用)	0円 (0)	0.001% (0.001)
(その他)	(0)	(0.000)
合計	0	0.001

※期中の平均基準価額は40,965円です。

(注1) 「1万口当たりの費用明細」は、マザーファンドの直近の計算期間のものです。費用項目の概要については、2ページ「1万口当たりの費用明細」の項目の概要をご参照ください。

(注2) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は、追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注3) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注4) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

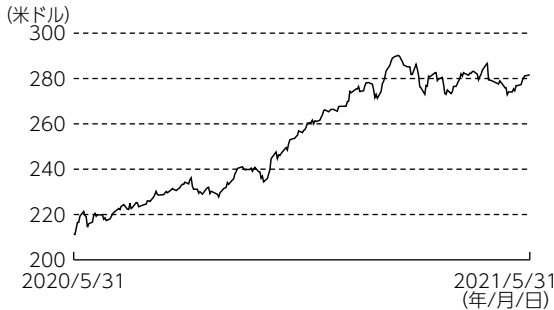
※当マザーファンドの運用経過につきましては、「運用報告書（全体版）」をご覧ください。

マザーファンドの組入上位ファンドの概要

(2021年5月31日現在)

◆UBS (Lux) ボンド・シキャブーコンバート・グローバル (EUR) (米ドルヘッジ)

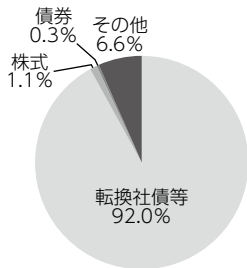
基準価額の推移 (2020年5月31日～2021年5月31日)



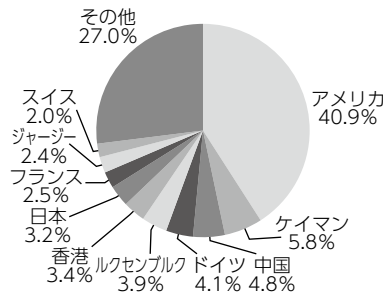
組入上位10銘柄 (銘柄数: 153銘柄)

銘柄名	種別	通貨	比率(%)
PALO ALTO NETWORKS INC 0.75000% 19-01.07.23	転換社債等	米ドル	1.52
LIBERTY MEDIA CORP 1.37500% 13-15.10.23	転換社債等	米ドル	1.38
ABU DHABI NATIONAL OIL CO-REG-S 0.70000% 21-04.06.24	転換社債等	米ドル	1.36
MICRON TECHNOLOGY INC 3.12500% 12-01.05.32	転換社債等	米ドル	1.25
SOCIETE GENERALE SA/MARSH RCV 0.00000% 18-03.08.21	転換社債等	米ドル	1.13
DEXCOM INC 0.75000% 18-01.12.23	転換社債等	米ドル	1.06
LYFT INC-144A 1.50000% 20-15.05.25	転換社債等	米ドル	1.05
ANILIAN CAPITAL LTD-REG-S 0.00000% 20-05.02.25	転換社債等	ユーロ	1.05
BILIBILI INC 1.37500% 20-01.04.26	転換社債等	米ドル	1.02
APTIV PLC 5.5% MANDATORY CNV PFD SHS	株式	米ドル	1.02

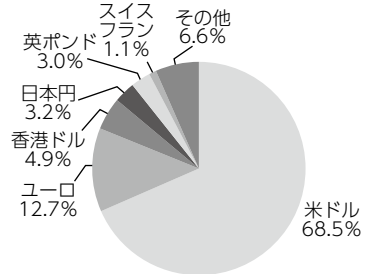
資産別配分



国・地域別配分



通貨別配分



※投資対象資産が実質的に米ドル建てとなるよう為替取引を行っています。

(注1) 「基準価額の推移」は組入ファンドの直近の計算期間、「組入上位10銘柄」、「資産別配分」、「国・地域別配分」、「通貨別配分」は組入ファンドの直近の決算日現在のものです。

(注2) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注3) 「国・地域別配分」は、発行国・地域または投資国・地域を表示しております。また、「その他」には預金およびその他資産（負債控除後）が含まれます。

(注4) 「通貨別配分」はポートフォリオ部分について表示しており、預金およびその他資産（負債控除後）は「その他」に含めて表示しております。

(注5) 上記のポートフォリオの内容は、監査済みアニュアルレポートの情報に基づき作成しています。

1万口当たりの費用明細

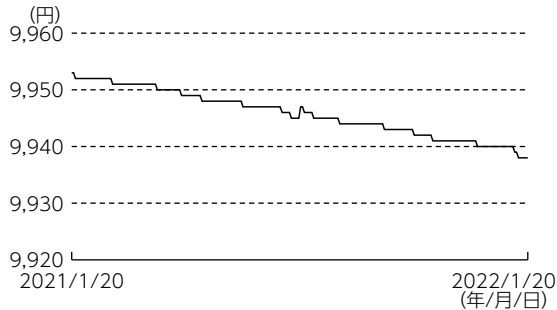
当該情報は開示されていないため、記載しておりません。

マザーファンドの組入上位ファンドの概要

(2022年1月20日現在)

◆UBS短期円金利プラス・ファンド（適格機関投資家向け）

基準価額の推移 (2021年1月20日～2022年1月20日)



組入上位銘柄

2022年1月20日現在、有価証券等の組入れはありません。

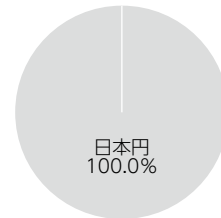
資産別配分



国・地域別配分

2022年1月20日現在、有価証券等の組入れはありません。

通貨別配分



- (注1) 「基準価額の推移」は組入ファンドの直近の計算期間、「組入上位銘柄」、「資産別配分」、「国・地域別配分」、「通貨別配分」は組入ファンドの直近の決算日現在のものです。
- (注2) 「組入上位銘柄」、「資産別配分」、「通貨別配分」の比率は組入ファンドの純資産総額に対する評価額の割合、「国・地域別配分」の比率は組入ファンドのポートフォリオ部分に対する評価額の割合です。
- (注3) 上記のポートフォリオの内容は、組入れられたファンドの投資資産を表示しております。なお、直接投資しているのはマザーファンドですが、「組入上位銘柄」、「資産別配分」、「国・地域別配分」、「通貨別配分」はその先の投資資産を表示しております。

1万口当たりの費用明細

項 目	当期 2021/1/21～2022/1/20	
	金額	比率
信託報酬	4円	0.044%
（投信会社）	(1)	(0.011)
（販売会社）	(0)	(0.001)
（受託会社）	(3)	(0.032)
その他費用	0	0.002
（その他）	(0)	(0.002)
合計	4	0.046

※期中の平均基準価額は9,946円です。

- (注1) 「1万口当たりの費用明細」は、直近の計算期間のものです。費用項目の概要については、2ページ「1万口当たりの費用明細」の項目の概要をご参照ください。
- (注2) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は、追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
- (注3) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
- (注4) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。